



## PRESS RELEASE

大学記者クラブ加盟各社 御中

平成22年 3月23日  
岡山大学

## 地域資源を活かした耕作放棄抑制の課題と対策

はじめに：

近年、中山間地域では農業従事者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地が増加している。その様な中で、岡山県小田郡矢掛町 Y 集落では、遊休農地への干し柿加工用の西条柿植樹により耕作放棄地の抑制に取り組んでいる。本研究では、干し柿の様な「地域資源」を活用した耕作放棄抑制のあり方を検討した。

### 対象集落の概要

Y 集落は、標高 250～300m の台地上に位置しており、瀬戸内海からの風が吹き込み、干し柿生産に適している（写真 1）。現在は、15 戸の農家から構成される干し柿生産組合が中心となって干し柿生産を行っている。集落内には、約 900 本の西条柿が存在している。平成 21 年度には、干し柿生産組合が中心となり約 190 本の西条柿植樹を行った。その結果約 70a の耕作放棄地を解消している。しかし、



写真 1. Y 集落の干し柿生産

干し柿生産組合農家の高齢化が進行しており（干し柿生産農家の平均年齢は、70.8 歳）、これらの西条柿の管理が困難になる可能性がある。なお、Y 集落では毎年 12 月に「干し柿まつり」を開催している。

### 内容

干し柿生産組合農家を対象としてアンケート調査を実施し、1) 将来的な農業継続意向、2) 後継者の有無、4) 西条柿の管理・干し柿加工の各作業の負担度等を明らかにした。

西条柿の管理・干し柿加工ともに、約 60%の農家が「10 年以内の引退」を考えている。これらの 10 年以内に引退を考えている農家の中で後継者がいる農家は、約 20%であった。以上の様に、集落内の農業労働力は減少していくものと推測される。

西条柿管理の負担度は、最も高い作業は「収穫作業」【3.9 点】、次いで「摘蓄・摘果」【3.5 点】、干し柿加工作業では、「干す作業」【3.3 点】が最も負担度が高くなっていた（いずれも主観的な負担度を 5 段階で評価したもの。点数が高いほど負担だと感じている。）。将来的に干し柿生産を継続するためには、



## PRESS RELEASE

これらの作業を中心に労働力を補完する必要がある。しかし、前述のように集落内の労働力は減少していくために、集落外からの労働力導入が必要になると考えられる。そこで、Y集落外の住民を対象としてアンケート調査を実施し、1) 干し柿等の地域資源に対する魅力度、2) 西条柿管理・干し柿加工作業の魅力度及び手伝いへの協力意向を明らかにした。アンケートは、2009年12月20日に行われた干し柿まつりへの参加者を対象に実施し、サンプル数は42であった。平均年齢は、57.4歳であり、矢掛町内からの参加者が約60%であった。最も魅力度が高い地域資源は、「干し柿」【4.5点】、次いで、「干し柿・干し柿の加工品の作り方の知識」【3.7点】となっていた（いずれも主観的な魅力の大きさを5段階で評価したもの。点数が高いほど魅力的だと感じている。）。また、干し柿加工の作業に関しては、「皮むき作業」【3.2点】、「干す作業」【3.0点】の魅力度が高くなっていた。

以上の事から、地域外からの労働力を導入した時に、1) その報酬として地域資源を活用できる可能性がある事、更に2) 「皮むき作業」の様に農作業そのものが報酬として利用可能である事の2点を明らかにした。

### 研究経緯

本研究は、岡山県備中県民局からの委託による耕作放棄地解消方策調査研究業務の一部として行ったものである。

### 今後の可能性

その他の労働力の導入方策とした、学生等によるボランティア活動も検討している。平成21年度には、Y集落において農学部の学生が干し柿加工作業の体験と農家との交流事業を行った（写真2）。



写真2. 干し柿加工の体験

#### <お問い合わせ>

岡山大学大学院環境学研究科

准教授 駄田井 久

(電話番号) 086-251-8372

(FAX番号) 086-251-8372